

ジャパンサーチ・アクションプラン2021-2025 が 目指すもの

策定プロセスから見た デジタルアーカイブの現場の思い

令和4年11月12日
デジタルアーカイブ学会 第7回研究大会
一般研究発表（オンライン）

国立国会図書館
奥村牧人、徳原直子、高橋良平



1 はじめに

—「ジャパンサーチ戦略方針2021-2025」の策定

2 戦略方針の具体化に向けて

—連携機関・活用者との意見交換会

3 ジャパンサーチ・アクションプラン2021-2025

4 2022-2023の重点アクション

—キュレーション活動の推進

1 はじめに

—「ジャパンサーチ戦略方針2021-2025」の策定

ジャパンサーチ戦略方針2021-2025 (2021年9月策定)

<https://jpsearch.go.jp/about/strategy2021-2025>

「デジタルアーカイブを日常にする」

ミッション

新しい情報技術とアーカイブ連携を通じて、日本の文化的・学術的コンテンツの発見可能性を高め、それらを活用しやすい基盤を提供することで、デジタルアーカイブが日常に溶け込んだ豊かな創造的社會を実現します

3つの価値

デジタルアーカイブの大切な役割

記録・記憶の
継承と再構築

コミュニティを
支える共通
知識基盤

新たな社会
ネットワーク
の形成

4つのアクション

ジャパンサーチを使った活動の柱

支える

学び・遊びの体験、キュレーション活動、ひと繋ぐ、DAを長く

伝える

DAを集約・整理、DA活用方法、DA構築方法、コンテンツの魅力

広げる

デジタル化の推進、ファン層、魅力あるDA、使いやすいコンテンツ

挑む

オープン化、新たな可能性、新たなネットワーク、社会のDX化

2 戦略方針の具体化に向けて —連携機関・活用者との意見交換会

戦略方針の具体化に向けて



JAPAN SEARCH

国立国会図書館の役割

- 実務者検討委員会（ジャパンサーチの運営主体）の企画運営に協力
- ジャパンサーチのシステム開発・運用・連携協力を担当する立場から、アクションプランの素案を作成

✓ 自分たちのアクションプランだと思ってほしい



✓ アクションプランの主体は運営側だけでなく、連携機関や活用者も巻き込みたい



✓ 分野を超えて議論したら、良いアイデアが出てくるかも



そこで…

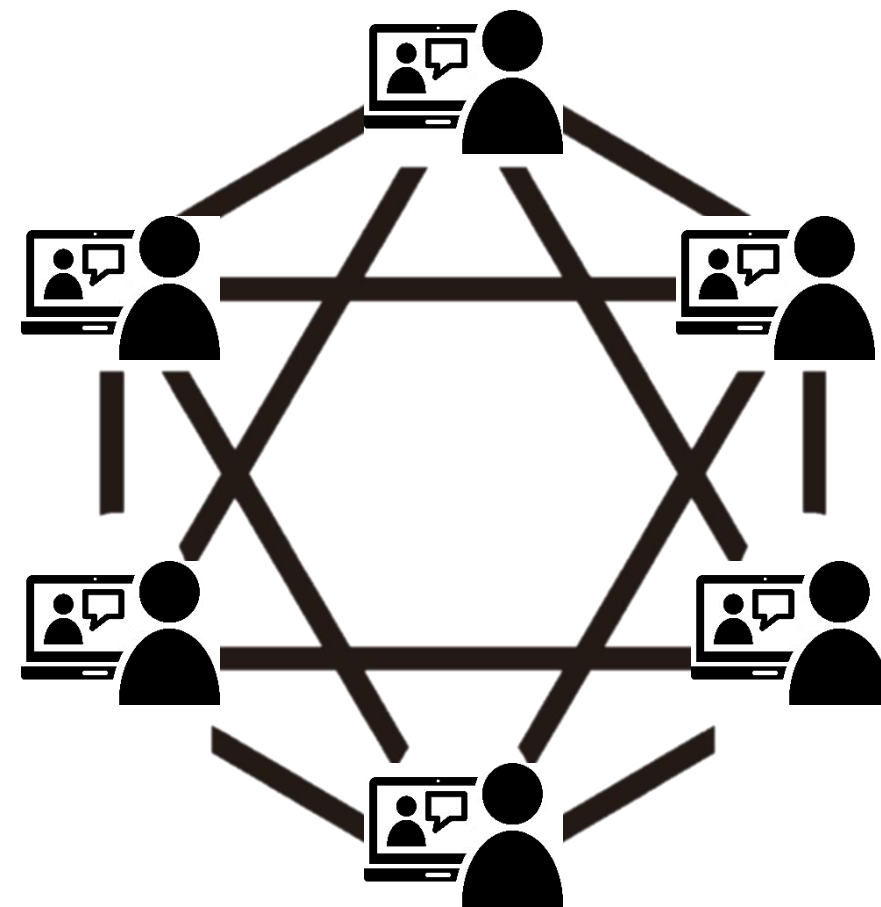
連携機関との **意見交換会** を開催することにした

→ Europeanaの「**アグリゲーターフォーラム**」のような場所をイメージしつつ。

オンライン形式で開催

けど同時に…

- しっかり意見交換・議論したい。
- 他の人の意見を受けて、議論を発展させたい。



オンラインツールの活用

ブレイクアウトセッション

⇒5名程度にグループ分け

オンラインホワイトボード

⇒議論の**論点**や**分布**を視覚化



意見交換会のアジェンダ



JAPAN SEARCH

(1) 「デジタルアーカイブが日常に溶け込んだ世界」とはどのような世界だと思うか

(2) 「デジタルアーカイブが日常に溶け込んだ世界」の実現のために、自分たちはどんなことができるか





(1) 「デジタルアーカイブが日常に溶け込んだ世界」とはどのような世界だと思うか

社会・情報インフラ

● 多くの人に知らず知らずに使われている

● 学校の授業などで当たり前に使われている

● 余暇などに「見る」「知る」「調べる」を楽しむ人が増えている

● ビジネスとしてまわっている

● お金の面も含めてアーカイブの仕組みが
できている

持続可能性

● 情報リテラシーが当たり前になっている

● 信頼性のあるところから情報を得ることが
習慣付いている

● 学びに必要な情報が専門家だけのもの
でない状況となっている

情報のオープン化・リテラシーの向上

(2) 「デジタルアーカイブが日常に溶け込んだ世界」の実現のために、自分たちはどんなことができるか



JAPAN SEARCH

DAを充実させる

●眠っている資源を発掘し、デジタル化

●デジタルコンテンツの質と量の向上

●DAに載せる情報を充実させていく

●オープンな条件で公開を進める

敷居を下げる

●学校の授業やイベントで使ってもらう

●現代のデータを意識的に取り扱う機会を増やす

●地域の資料や身近なもの・ことをDAに入れる

●楽しさという視点を忘れずに

3 ジャパンサーチアクションプラン2021-2025

デジタルアーカイブの構築・連携における各フェーズのアクション

構築

デジタルデータ作成・公開

連携

分野・地域内連携 → JPS連携

活用促進

活用のためのデータ整備

連携機関

- ・資料のデジタル化
- ・デジタルデータ収集
- ・コンテンツのウェブ公開

ウェブ公開コンテンツの拡充

- ・分野内のメタデータや用語の標準化
- ・分野コミュニティとの連携
- ・ジャパンサーチとの連携

連携コンテンツの拡充

- ・サムネイルURL、コンテンツURLの追加
- ・二次利用条件の整備
- ・英語のタイトル、解説等の追加
- ・メタデータのオープン化 (CC0, CC BY, CC BY-SA, PDM)
- ・サムネイルのオープン化
- ・コンテンツのオープン化

メタデータの充実・オープン化

ジャパンサーチ

- ・相談窓口の開設
- ・ガイドライン等の提供
- ・優良事例の共有

- ・つなぎ役の醸成に向けて、機能提供
- ・連携説明会の開催
- ・連携マニュアルの充実

- ・望ましい二次利用条件の在り方等各種ガイドラインの周知
- ・相談窓口の開設
- ・オープン化のメリット、事例の共有
- ・表彰



活用者

- ・デジタルコンテンツの提供
- ・メタデータ整備への協力 (ツール開発)

- ・連携ツールの開発

- ・ハッカソン、アイデアソンへの参加
- ・デジタルコンテンツのキュレーション実践
- ・新たなサービスの開発・提供

デジタルアーカイブの活用における各フェーズのアクション

知ってもらう

日常業務で使ってもらう

コミュニティで
使ってもらう

コミュニティを
超えた交流

活用者

・SNS等の発信

【例】

(教職員) 授業・講義の実践
(図書館員) レファレンス
(学芸員) 展示／企画テーマ検討
(クリエイター) 創作活動のアイデア探し／
素材の利用
(記者) 調査／掲載用素材／ネタ探し

・デジタルコンテンツの
キュレーション実践
・同じコミュニティ内での 事例
共有
・ワークショップ等の開催

・ジャパンサーチイベントへの
参加
・新しいサービスの開発・
提供

連携機関

・同じ組織内の関係
者との情報共有
・ウェブサイトへのJPS
ロゴの掲載

・広報担当者にSNS発信でコンテ
ンツを使ってもらう
・日常業務で使ってもらうよう働き
かける

・コミュニティ向けワークショップ
等の開催

・異分野の他機関との
ギャラリー共同制作

周囲への働きかけ

同じ組織内の関係者への働きかけ

同じ分野・地域コミュニティへの働きかけ

ジャパン
サーチ

・連携機関の広報活動支援のためのリーフレット作成
・連携機関向けワークショップの開催
・JPSロゴの提供

・コミュニティ向け活用マニュアルと事例の情報発信
・目的ごとの活用コミュニティの形成

4 2022-2023の重点アクション —キュレーション活動の推進



アクションプラン 実行スケジュール

●キュレーション活動の推進

- 広報の強化
- 関連する知識と経験の共有

- 二次利用条件の整備／オープン化の推進
- 地域アーカイブとの連携拡充

- 相談窓口の創設
- 長期保存のための取組
- 利活用モデルの構築
- 活用者の活動支援
- 新たなネットワークの形成

2021

年度

2022

年度

2023

年度

2024

年度

2025

年度

おわりに

- アクションプランは **誰も** が、**参加できる** 取組です。
- できるところから、**小さな一歩** を踏み出してみませんか。



ジャパンサーチ・アクションプラン2021-2025

<https://jpsearch.go.jp/static/pdf/about/actionplan2021-2025.pdf>

目標

◆支える◆

2. デジタルコンテンツの様々なキュレーション活動を支援します

目的：「コミュニティを支える共通知識基盤」の実現

コンテンツのキュレーション（コンテンツを特定のテーマに沿って収集、選別、編集すること）によって、誰もが分野横断的に複数の情報を結び付け、自分の発見や考えを表現し、それによって、異なる分野・地域の人やコンテンツが結び付き、新たなコミュニケーションを生み出す共通知識基盤を提供すること。

理想：ジャパンサーチの「キュレーション」機能が日常的に利用されている。「キュレーション」機能を使って異なる分野・地域の人々の間でコミュニケーションが行われている。フィジカルとバーチャルの展示の融合など、アーカイブ機関においてコンテンツを活用した様々なキュレーションが行われている。

現状：ジャパンサーチのキュレーション機能であるマイギャラリーはアカウント登録なしでも利用でき、オンライン上でギャラリーを共有することができる（24時間限定）ほか、連携機関向け機能であるワークスペースではURLとパスワードだけで常時複数人によるマイギャラリーの共同作業が可能である。また、連携機関向け機能として、特定テーマについての専門的検索を可能にするテーマ別検索も用意されている。しかし、これらの機能は十分に知られておらず、一層の活用を促す余地がある。

取組

取組：【関連目標：1, 6, 8, 10】

- ① ジャパンサーチのキュレーション機能に関するワークショップの開催等を通じて、キュレーション活動を支援します。●▲■
- ② より直感的にキュレーションが行えるよう、マイギャラリー機能の更なる改善を図ります。●
- ③ マイギャラリー機能を用いたコンテストの開催等、キュレーション活動を実践します。●▲■
- ④ フィジカルな展示とバーチャルな展示の融合、又はバーチャルな展示におけるフィジカルな展示の再利用など、博物館・美術館、文書館、図書館等のキュレーション活動でジャパンサーチを使った新たな取組を実践します。▲■
- ⑤ ジャパンサーチの連携コンテンツを広報活動において素材として活用し、それを通じて報道機関などメディアが発信する素材としての活用を促進します。●▲■
- ⑥ デジタルコンテンツを活用した様々なキュレーションの可能性を広げるための取組を支援します。●